

## 現場の問題解決能力を高めることが急務

—民営化から1年を迎えた率直な感想は？

あっという間に1年が過ぎたという感じだ。慌ただしい日々の流れの中で仕事のことや組織のことをゆっくりと振り返る時間をもち得ていなかった。民営化1年を契機に、仕事のことや組合のこと、将来ビジョンなどをじっくりと考えてみる必要があるのではないか。

—この1年で特に心に残る苦労や出来事は？

自分のことで言えば、今年の4月24日に旧無配局から集配センターを併設する香南郵便局に転勤となり、その3日後に新組織の支部長に就任したこと。昨年10月の民営化実施から余りにも自分をとりまく環境の変化が激しく、それへの対応で大変だった。特に現在は郵便関係職場が身近になったこともあり、配達センターやJPエクスプレス問題など郵便事業の課題に気を配っている。現場では郵便がこの先どうなるのか、自分の職場はどうなるのかという不安感が強い。支部長として組合員の思いをしっかりと受け止め、対応していかねばと思っている。

—民営化に対するお客様の評価はどうか？

郵便局職場で感じることは、お客様がもしかしたら離れてしまっているのではないかと不安だ。貯金業務で言えば例えば正当権利者の確認や窓口の待ち時間などで迷惑をかけた。最近は多少改善されてはきたが、自分ではどうにもならないもどかしさがある。



JP 労組四国地本  
香川県東支部 支部長  
**西山 和伸**

1963年生まれ。81年年6月高松鉄道郵便局に採用。98年から高松市内の無集配局に勤務。2008年4月に香南郵便局(集配センター併設局)へ配転。香川県東支部は組合員688名(四国では2番目に組合員が多い)。

った。いつもの顔見知りのお客様なのに証明書がないため手続きができない、あるいは、窓口事務が煩雑なため、どうしてもお待たせしてしまう。これは働く側にとってもつらいことだ。いままで郵便局をメインにしていたお客様で他の民間銀行にシフトしていった方も何人かいる。政府保証がなくなったことの影響もあろうが、お客様が郵便局を見る目はシビアだ。私たちが会社にものを言っても、それがどう生かされているのか見えにくい。職場の最前線で何が起きているのか、もっと会社組織もJP労組もしっかりと見て、意見を吸い上げる努力が必要だと思う。

—最近の職場の雰囲気はどうか？

ようやく少し落ち着いてきた感じはある。しかし、まだ安定してきたとは言えない。職場にはいろんな業務指導の文書が送られてくるが、現場ではそれを読んで、確認して、対応していただくだけで精一杯。しかも、その業務指導がほとんど毎月のように変わってくる。郵便局活力向上宣言などで改善の方向にあることはいいと思うが、あまりにも変化が激しすぎて、現場はそれについて行くだけで

も大変だ。

—民営化による組合員の意識変化はどうか？

民営化の厳しさというものを肌身で感じているのではないか。郵便局は「営業の会社」と言われているが、たとえばカタログ販売など現場からみて「こんなのが売れるの？」と首をかしげたくなるような商品も少なからずある。しかし、会社からは目標達成を求められ、結局は「タコ足営業」という現実もある。これなら自信をもって売れるという商品があればいいのだが、そこが現場の苦しいところだ。会社はもっと社員のモチベーションを高めるような商品企画やサービスを打ち出してほしい。社員は一人ひとり本当に頑張っていると思う。

—地域社会との結びつきは民営化によって変わったか？

これまで郵便局が集配業務をやっていたときは地域とのつながりが強かったが、分社化して集荷をやらなくなったら地元企業との付き合いが薄くなった。小豆島のソーメンは地元の郵便局長が一生懸命ソーメン業者とのつながりをつくってきたものだが、民営化を契機に集荷が出来なくなって業者との結びつきが壊れたと聞いている。それがゆうパックの伸び悩みの一因ではないかと思う。クロネコヤマトは「あなたの近く500メートル以内に集配拠点があります」という企業イメージで地域密着性をアピールしているが、逆に郵便事業は集配拠点の再編で、不便になった、煩雑になった、面倒になったというマイナスイメージになってしまっている。お客様に「民営化して良くなった」と思われるようなものがあるのだろうか。お客様に「便利になります」と言えるものがないのは寂しい。それがあれば社員の働き甲斐にも通じるのだが。

—今後、改善すべき課題は何か。

現場の問題解決能力を高めることが何よりも必要だと思う。それは仕事のことにも言えるし、労使関係のことでも言える。特に郵便事業会社の場合は現場長の権限が民営化前と比べて低くなっているのではないかと。利用者や現場の身近なところで当事者能力を発揮できることが早期の問題解決につながるし、信頼関係の構築にもなる。

—統合後のJP労組の組織運営、運動課題はなにか？

組合が一つになったといってもまだ完全に融合できたわけではない。支部執行委員会でいろいろと議論しているが、正直言って難しい課題もある。また、支部運営の面でも組合事務に追われている現実がある。特に組合員の異動期などは作業量が相当なボリュームになり大変だ。600人を超える支部でも書記局には日中は誰もいない。夕方から執行委員が集まって何とかこなしている。もう少し書記局業務の負担が軽くなればと思っているのだが。

—支部長として、2年目の抱負は？

しっかりとした支部組織を作り上げること。ようやく支部大会を開催し動き出したばかりで、まだまだ十分な組織体制にはなっていない。まず、分会、班の組織をきちんと形あるものにしたい。組合員が「集まって」、「意見を持ち寄って」、そしてたまには「一緒に遊ぶ」というような時間づくり、場所づくりが大切だと思っている。そうした中で非正規社員みなさんにも「組合に入って良かった」と実感してもらえるような支部組織を作りたい。組合員にとって身近なところで問題解決が図れるような存在でありたいと思っている。